

びわ湖芸術文化財団「地域創造部」と「文化産業交流会館」からの情報をお伝えする「えいじやに」。今回は、5月3日(木・祝)の「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2018」米原公演にご出演のお二人にお話を聞きました。今回の企画は、びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバーの竹内直紀さんとコーラス・グループフォレストのリーダー大野 隆さんが旧知の仲であったことから始まりました。

## スタイルは違うけれども、歌を愛する心は共に変わりません。

### 音楽は世界共通語 竹内 直紀(びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー) × 大野 隆(フォレスト)

#### 僕たちの音楽の原点

竹内：どうも大野くん久しぶりですね。中学校以来ですか？

大野：いやいや、今年の1月にコンサートで一緒したじゃないですか。

竹内：そうでした、そうでした(笑)。中学校で僕が関西に転校するまでずっと一緒でしたね。島根県浜田市市長沢町、僕が2丁目で大野くんが1丁目。幼稚園から小学校、そして中学校、あ、しかも同じ病院で生まれましたね。でもなんとと言っても地元の少年少女合唱団に揃って入団したのがお互い音楽を始めたきっかけでした。

大野：お互いよくいたずらをして先生にしかられましたね。合唱団の合宿中に出されたお弁当を2つも食べてお互い正座させられました(笑)。

竹内：でもあの時に歌った歌は今でもずっと心に残っていますね。

大野：今でもたまに口ずさみますよ。

お二人：(同時に)からすかねもんかんざぶろう〜♪(笑)

竹内：あの時少年少女合唱団で歌ってなかったら、お互いここにはいなかったかもしれませんね。

大野：僕たちの音楽の原点ですね。



小学校時代の竹内(左)、大野(右)

#### お互い音楽を愛する心は同じ

竹内：さて中学校で僕が関西に転校してからは、それぞれの道を歩み始めましたね。まだ将来の進路も決まらず、ただ今こうして声楽家として同じ舞台上立つなんて本当に不思議ですね。

大野：竹内くんは関西を中心に「びわ湖ホール声楽アンサンブル」のメンバーとして、僕は東京を中心にコーラスグループ「フォレスト」のメンバーとして。

竹内：いつもテレビで見えますよ。毎週月曜日BS日テレ「BS日本・こころの歌」すごい人気ですね。僕のまわりにもたくさんのファンの方がいらっしゃいますよ。

大野：おかげさまで、今では年間100本を超えるほどの公演を全国各地でおこなっています。フォレストは「日本の素晴らしい風土と文化を歌い継ぐ」をテーマに結成されたグループですが、名曲はジャンルの垣根を越えるという考えのもと、クラシックから叙情歌、童謡に昭和歌謡まであらゆる曲に挑戦しています。マイクを使った歌唱が中心ですが、もちろんメンバー全員クラシックを学んできましたので、オペラの名曲なども歌わせていただいています。ところで、竹内くんはびわ湖ホール四大テノールのリーダーもされているのですよね。

竹内：そうです。びわ湖ホール四大テノールのメンバーはもともとびわ湖ホール声楽アンサンブルで共に活動していた4人で、一人でも多くの方に「癒しと活力」を届けよう！テノールの明るい響きでこの日本を元気にしよう！ということで結成しました。特に、子どもから大人までクラシックにあまり興味がなかった方にも親しんでもらおうと、「クラシック」に「笑い」の要素を取り入れたとても楽しいコンサートをしています。テノールdeコントは四大テノールの名物コーナーです。歌もコントも全力投球です(笑)。今度はコントにも参加しませんか？

大野：いいですねー！(笑)スタイルは違えど、お互い音楽を愛する心は同じですね。今回は同じ舞台上立るのがとても楽しみです。

#### びわ湖クラシック音楽祭に向けて

竹内：それで、今回の米原のコンサートだけど、どうでしょうかねえ…。

大野：今回、『近江の春 びわ湖クラシック音楽祭』ってことなんですよね。だからそのあたりを考慮して春らしく、新たなる出発、そしてびわ湖に架かる橋のように、びわ湖ホール声楽アンサンブル、フォレストの東西のコーラスグループが音楽の架け橋になるって素敵じゃないですか。その小さな架け橋がどんどん大きくなって「音楽の環」が広がってくれたら嬉しいですね。

竹内：「音楽の環」いいですね！音楽は世界共通語ですからね。目指すは「世界平和」ですよ！

大野：いきなり大きくなりましたね(笑)。

竹内：夢は大きく！世界の平和を守るため〜♪

大野：なんだかヒーローっぽいですね(笑)。でも、小さい頃、そうやってヒーローごっこをして一緒に遊んでいたあの時の純粋な気持ちを大切にしたいですね。

竹内：だからプログラムにも子どもの時に聴いた懐かしい歌も入れたいですね。びわ湖ホール声楽アンサンブルは県内の小学校などにも出かけて子どもたちにオペラや音楽の素晴らしさを伝えることにも力を入れています。だから林光さんのオペラ「森は生きています」なども入れてもいいですね。

大野：いいですね。フォレストはマイクを持って、いつものスタイルで懐かしい歌謡曲も歌いましょう。それぞれの世代の素晴らしい歌はたくさんありますよ。

竹内：ものすごい数のレパートリーを持っていますよね。

大野：でも一番の聴かせどころは、なんとといってもびわ湖ホール声楽アンサンブルとフォレストのコラボレーションですよ。いったいどんなサウンドになるのかとても楽しみです。

竹内：そうですね。フォレストさんが僕たちびわ湖ホール声楽アンサンブルの中に入ってのクラシックスタイルに、反対に僕たちがフォレストさんの中でマイクを持って一緒に歌うなんて、なんだか考えただけでワクワクしますよ。

そして、その会場は米原市にある滋賀県立文化産業交流会館ですが、びわ湖ホール声楽アンサンブルの公演は2回目だけどフォレストさんは、初めてですよ？

大野：滋賀では野洲市、守山市に行ったことはありますが米原市は初めてです。どんな会場ですか？

竹内：いるんな催しに対応できるアリーナスタイルのホールで、J-



少年少女合唱団時代の制服を着るふたり

POPコンサートから家電製品、トラクターや工作機械の展示会、大学の入試会場まで幅広く使われているらしいよ。

大野：それはまた、バリエーションがありすぎですね。音響的にはどうなんですか？

竹内：ホールの人の話によると、先日布袋寅泰さんのライブがあって、帰り際にご本人が「この箱(ホールのこと)はいい音だった。また来たい」と満足して帰られたとのことでした。

大野：それは楽しみです。前日にリハーサルがあるので確かめてみ



Profile / 竹内直紀(テノール)

島根県浜田市出身、京都市立芸術大学管打楽専修卒業、卒業後、声楽に転向、同大学大学院修了。約200公演を超えるオペラに出演、数々のコンクール入賞。びわ湖ホール四大テノールは平成28年度関西元氣文化園賞ニューパワー賞受賞。毎週土曜日昼11時より放送中のBS朝日「子供たちに残したい 美しい日本のうた」にレギュラー出演中。びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー。関西二期会会員



Profile / 大野 隆(バス)

島根県浜田市出身、東京音楽大学声楽科、武蔵野音楽大学大学院修了。声楽を岸本 力氏に師事。オペラでは新国立劇場、日生劇場、東京オペラプロデュース他様々な主催の公演にソリストとして参加。30以上のレパートリーを持つ。声楽曲、宗教曲のソリストとしても活動しており、「第九」、「メサイヤ」他多数の公演に参加。スロバキアコンクール声楽の部入賞、チェコ音楽コンクール声楽の部第一位。毎週月曜日夜9時より(4月からは夜7時より)放送中の「BS日本・こころの歌」に混声ユニット【フォレスト】のメンバーとしてレギュラー出演中。二期会会員

## EVENT

### 開館30周年記念事業 びわ湖ホール声楽アンサンブル&フォレスト コラボレーションコンサート

～びわ湖が生んだ [びわ湖ホール声楽アンサンブル]

そしてBS日テレでおなじみ数々の名曲を歌い継ぐコーラス・グループ [フォレスト] の夢の競演～

音楽は言葉を超え、国境を超え、お互いの心をつなぐ力があります。このコラボレーションコンサートは西のびわ湖ホール声楽アンサンブルと東のフォレストの小さな架け橋から、世代を越え、国を越え、そして世界へ、大きな架け橋になるように願いを込めたコンサートです。

日 時：2018年5月3日(木・祝) 14:00開演

会 場：滋賀県立文化産業交流会館 イベントホール

入場料 一般 2,000円 25歳以下 1,500円 <全席指定> ※当日500円増 ※6歳未満の入場はご遠慮ください。  
【プレイガイド】  
滋賀県立文化産業交流会館 TEL.0749-52-5111  
びわ湖ホールチケットセンター(現金・窓口販売のみ)  
ローソンチケット(Lコード 53836)

チケット発売中

### 近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 米原公演

出演

びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー  
黒田恵美、佐藤路子(ソプラノ) 森 季子、田中千佳子(メゾ・ソプラノ)  
竹内直紀、清水徹太郎(テノール) 西田昭広、砂場拓也(バリトン)  
植松さやか(ピアノ)

フォレスト

男声 澤田 薫、横山慎吾(テノール) 塩入功司(バリトン)  
大野 隆(バス)

女声 中安千晶、小笠原優子、吉田 静、谷原めぐみ  
南雲 彩(ピアノ)、山木亜美(エレクトーン)

主 催 滋賀県立文化産業交流会館  
制作協力 フォレスト・プロジェクト株式会社  
後 援 滋賀県教育委員会、KBS京都

## COLUMN

### ニットキャップシアター ごまのはえ 演劇とイクラ

あれほど稽古した「美味しい×ロディ改」が終わってもう2カ月が過ぎた。本番中も色んなことがあったけど振り返る気にはならない。忘れてしまったわけじゃないけど、終わった公演を振り返る習慣がないのだ。本番が終わると残酷なほど気持ちが「次」に切り替わる。次の作品のこと、次の現場のこと。そうやって20年間演劇を続けてきた。現場が変わるたびに環境も一緒に作業する人も変わる。このあっさりした感じも舞台芸術の魅力の一つだと思っただけど、私だけかな？とはいえ私の性格は極めて執念深い。切り替え上手なのは演劇に関してだけのようだ。例えば今年の正月、実家への土産として8,400円もする冷凍のイクラを買っていったが、先に弟夫婦がイクラを買ってきており、私のイクラは冷凍庫にしまわれてしまった。そして一粒も食べないまま正月休みは終了。なんせ8,400円だから、絶対私のイクラの方が美味しかったに違いない。こういうことは何年たっても忘れない。



脚本・演出にごまのはえさんを迎え、地元演劇関係者とともに子どもたちと舞台を製作し、昨年12月3日(日)文化産業交流会館で「美味しい×ロディ改」を上演しました。次回は、ごまのはえさんの新作・書き下ろし作品を上演する予定です。